

平成30年1月10日

## 好評開催中！

### 南相馬市博物館平成29年度特別展「東北の自然を押し。東北おし葉標本展」 福島大学ステージ

福島大学資料研究所は、平成29年12月8日(金)から平成30年1月17日(水)まで本学附属図書館1階のロビーにおいて、「東北の自然を押し。東北おし葉標本展」福島大学ステージを南相馬市博物館との共催により、下記のとおり開催しています。

#### 記

主催	福島大学資料研究所
共催	南相馬市博物館
後援	福島大学，福島大学附属図書館，東北植物研究会，福島県植物研究会
会場	福島大学附属図書館1階 ロビー
期間	平成29年12月8日(金)～平成30年1月17日(水) 12月25日までの開催予定でしたが、会期を延長し、新たな展示(ミヤマトキソウ)も追加しました。

#### 趣旨

「おし葉標本」というと、どのようなイメージをお持ちでしょうか。夏休みの宿題、博物館の片隅、樟脳 [しょうのう] のニオイ、……。おし葉標本(学術用語では「腊葉 [さくよう] 標本」)は、植物を押しながら乾燥して、その形態を永続的に観察できるようにしたものです。標本そのものやそれに添付されたラベルの情報は、植物形態学、植物分類学などの研究を支える資料です。あるときは、新しい植物や産地の発見の証拠資料にもなります。開発などで現在は消滅してしまった植物がそこに生育していた、貴重な証言者でもあり、最近では、昔の環境を今に伝える実証的な資料としての価値が注目されています。また、近年の技術により絶滅した植物など過去の遺伝子を取り出すことができるようになり、DNAの「タイムカプセル」としての役割も果たします。

おし葉標本に魅せられた人達の集まりである東北植物研究会は、「東北おし葉標本展」として、毎年東北地方各地で展示を行ってきました。第11回を迎える今年は、南相馬市博物館特別展として平成29年11月3日(金)～12月3日(日)に開催されました。この展示に出展していた標本から、福島大学貴重資料保管室の所蔵する、教員や学生が採集し研究に用いられた標本を中心にピックアップし、新たな展示も加えて再構成したのが「福島大学ステージ」です。一件地味なおし葉標本が秘めた、植物多様性研究

における植物発見のドラマや、もたらした研究成果、標本を取り巻く人達の熱い想いを  
ご紹介しています。

### 【主な展示資料】

- 標本 1 イワキアブラガヤ 福島大院生が DNA の解読に成功した 1930 年代の植物
- 標本 2 ヒトツバイチャクソウ および 標本 3 イチャクソウ 福島大で研究が進められた菌従属栄養進化のモデル植物
- 標本 4 オオヒゲナガカリヤスモドキ 福島大学生が確認した南会津町高清水自然公園ひめさゆり自生地に残っていた全国的にも貴重な苧安の茅場の優占種
- 標本 5 ビャッコイ 「幻の植物」再発見の元となった福島大学教員の標本と調査の様子の写真
- 標本 6 ヒナノキンチャク 絶滅危惧 IB 類植物の全国最大の集団が福島大学院生によってあぶくま洞周辺で発見された際の標本
- 標本 7 ガシャモク 九州に 1 か所しかなかった植物を福島大学卒業生が青森県で発見した際の標本
- 標本 8 クロヤツシロラン 東北地方初報告の標本
- 標本 9 タンザワサカネラン 東北地方初報告の標本
- 標本 10 ウミドリ 福島大学生が発見した、東日本大震災の津波跡に約 50 年ぶりに出現した植物
- 標本 11 クマガイソウ 福島大学生達が研究を進めている、福島市水原の自生地のクマガイソウの標本
- 標本 12 ミヤマトキシソウ 福島大学院生らが 2017 年に発表したランの新種の基準標本

(お問い合わせ先)

福島大学資料研究所

共生システム理工学類教授

黒沢高秀

電話：024-548-8201

メール：

kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp

# 「押す。自然を」東北の

第11回

東北 とうほく おし おし 葉 は  
標本展 ひょうほんてん



南相馬市博物館  
平成29年度特別展  
福島大学ステージ

**会期延長しました**

平成29年 12月8日(金) ~ 平成30年 1月17日(水) 図書館1階ホール

主催: 福島大学資料研究所 共催: 南相馬市博物館

後援: 福島大学・福島大学附属図書館

・東北植物研究会・福島県植物研究会



国立大学法人  
福島大学  
Fukushima University

